

人をつなぎ 未来をつなぐ  
明石のコミュニティ・スクールだより  
KOMIKOMISUKUSUKU  
未来への教育を考える特別号

明石市教育委員会事務局学校教育課

mail : gakkyo@city.akashi.lg.jp



TwitterQR  
未来への教育を考える特別号

No.10 2021.3.8

前号に続き、Meet de 対話Part4にお寄せいただいた感想の後半をご紹介させていただきます。前号同様、「若者を育てなければ日本は滅びますよ」の言葉を頭の中に置きながら読んでいただけたらと思います。

## お寄せいただいた感想 Part2

### 【学校関係感想5】

- これまでタブレットでのオンラインでは2～3名の参加であったが、大型テレビに繋いだことで校内研修として16名が参加できた。
- 具体的な実践を聞くことでコミスクの認識が深まる研修であった。
- 以前「コミコミスクスク」で紹介された「マンガで知る未来への学び」の登場人物を彷彿させる大学生の菊井さんの存在には驚かされた。
- 討議の柱が焦点化されており、地域とのつながりについて、当事者意識を持つことの重要性を考えることができた。

### 【学校関係感想6】

「駄菓子屋がまちづくりに有効か」どうかというテーマはとても興味深かった。高齢者と子どもをつなぐ（交流する）ことができる。昔あそび（伝統的な遊び）を実際に聞くことができる等いろいろなメリットがあることに改めて気付かされた。「コミュニティ・スクールを考える機会になる。」確かにその通りだと思った。日頃の教育活動に生かしたい。コミュニティ・スクールについて必要なものがよく分かった。カリキュラム・マネジメントについても今後考えていかなければいけないと感じた。教科ごとの関連性について再考がいると思う。他学校の取組について実践例を教えていただけたので分かりやすかった。自分から得意なことをグループで教える（レインボープロジェクト）についても、良いアイデアだと思う。現状では難しいことも多いと思うが、取り入れられるところは取り入れようと思う。（高学年から低学年へ教える。とても参考になった。）

地域とつながっていくことの良さについて（あいさつ防災等）支えてもらっている存在に目を向けることの必要性に改めて気付かされた。自分自身も地域との連携について意識を高めていかないといけないと思った。小さなところからあいさつ、地域の方へのお礼の手紙等を通して少しずつ“いい学校づくり=いいまちづくり”に努めようと思う。児童が書いたお礼の手紙を地域のかたが大変喜ばれたことが心に残っている。自分自身も地域の方々に感謝の気持ちを忘れずに、地域との連携をはかっていきたいと考える。一人一人の意識づけが大切なのだと思えた。

## 【学校関係感想7】

これまで教科は教科として扱わなければいけないという固定概念があったように思います。国語なら国語の力として能力を伸ばしていくことが授業であると考えていましたが、本日の研修を受け、松が丘小の実践発表を聞き、これからは子どもたちの実生活に結びつけた学習が必要だと提案された気がしました。総合的な学習はもちろん地域との関わり方についても教科と関連づけて学んでいくことができるのだと分かりました。

また、子どもたちが住んでいるこの地域で、自分たちが地域のために何ができて、そしてどんな恩恵を受けているのかを感じていくことが、自分自身の居場所の再確認であったり、自己肯定感を高めたりすることができるのではないかと感じた。

日々の生活の中で、出前授業などで、地域のコミュニティ・スクールなどを利用させてもらうこともあるが、そのことのありがたみや、関わり大切さというものをぜひ子どもたちにも感じてもらえればと思いました。

## 【一般感想1】

Meet de 対話Part4に参加させていただきありがとうございました。

[魚住まちづくり協議会事務局員菊井様のプレゼン]

①まず、まち協として菊井様の経歴に驚かされます。大学生でありながらまち協の事務局員でありプレゼンができるところがすごい。(それだけまち協を理解しているし、学校のことでも理解出来ている)

②国語教材“町の未来をえがこう”について学校とまち協が協働で議論をしたことがうかがえる。

その結果に基づき、まち協からの「あんなまちこんなまち多様な人で考えるまちの姿」のプレゼンが生まれたものと思われる。学校とまち協が協議し、まち協がプレゼンに至ったことが、素晴らしい。

③プレゼンはワークショップ型の出前授業という形式がとられ、校区のまちの良い所、課題の所、その中から子ども目線での将来像を描き、発表させるという、まさに未来を創り、地域を支える力を身につけさせる格好の授業となっている。素晴らしいと思います。

[松が丘小の松が丘プロジェクト]

①学年戦略としての「カリキュラム・マネジメントマップ」が作成されていることがすごい。重点科目の総合カリキュラムを先生同士のワークショップ型で徹底議論がなされ、子ども・地域と共に育つ学校を目指していることがうかがえる。このマネジメントマップは実態的な学校全体のランドデザインにもかなっていると思える。

②実態面ではバックキャストで松が丘サミットでの意見交換会を行い「未来を考える学習の場」となっており、これがリアルな探求の場を作っている。このことが研究の柱となり、枠組みの構築にもなっている。学校と子どもたちとまち協、3者が一体となって学習することが「社会に開かれた教育課程」の実現に向けての第1歩だと思えます。その意味で松が丘プロジェクトは素晴らしいと思います。

## 【他県教育関係者感想】

- ・魚住の大学3年生、すばらしいですね。高校生時代からの関わりによって地域の事務局に入って自ら学びながらも小学生の学びを作っていく、共に学ぶ姿が実現しているいい姿ですね。
- ・松が丘小学校のカリマネは、先生方のボトムアップで気づきの中に創られており、これも素晴らしい取組ですね。若い先生ですが、育っていますね。ここまできちんと説明できることが素晴らしいです。校長先生のリーダーシップがあるのでしょう。  
後ほど送付いただいたコミスクで、カリマネシートが地域の方の琴線に触れているのが素晴らしいと思います。
- ・ふるさと教育という言葉は、全国のCSのキーワードだと思います。  
平成16年から平成30年の文科省研究指定校の研究発表資料199事例にあたったのですが、将来の地域を担う人材を育てるためにCSが機能するという意識が、過疎地域のCSの叫びのように聞こえてきます。  
話し合いの中にも出ていましたが、学校が意識してそれを地域に伝えていくことが、地域に学びを生み出すことにつながると感じています。（特に都市部）  
目指す姿やビジョンの共有が、足元の街を持続可能にすることにつながると意識を学校が持ち、地域と共にやっていきたいですね。

感想を読みながら、兵教大の小西先生最終講義「起源1996－教育改革の行方－」の中で話された「今からの社会を変える」というフレーズが頭に浮かんできました。なぜ、教育が大切なのかを、経済の動き、人口問題、社会の変化等を例に、まさしくWell-beingの向上を目指す教育を語られたのではと思います。Well-beingの向上を目指すためには、よりよい市民として育ち・育てる社会の仕組みが必要なんだろうなと思いました。有馬先生の言葉「若者を育てなければ日本は滅びますよ」という最後のインタビューでの言葉も重なってきます。“これまで教科は教科として扱わなければいけないという固定概念があったように思います。国語なら国語の力として能力を伸ばしていくことが授業であると考えていましたが、…これからは子どもたちの実生活に結びつけた学習が必要だと提案された気がしました。総合的な学習はもちろん地域との関わり方についても教科と関連づけて学んでいくことができるのだと分かりました。”といった感想がありました。これを読んだ時、1996年から25年間我々は何も変えられず、時間を止めたままバトンをつないできたのではと本当に申し訳なくなりました。また、“日々の生活の中で、出前授業などで、地域のコミュニティ・スクールなどを利用させてもらうこともある”とも書かれています。改めてコミュニティ・スクールを含め、これからの学びのあり方について、学校関係者だけでなく、保護者の方にも、地域の方にも、そして子どもにも理解されるようわかりやすく説明していくことの必要性を感じさせられました。

今回の対話の中で地域、そして学校の中で変化が起こり始めているのではと感じます。そうした変化が広がっていけばいいなと思っています。今からの社会を変え、Well-beingの向上を目指していくために、学校・保護者・地域の連携・協働は欠かせません。そのためには、わかりやすく説明していくという当たり前のことの必要性を改めて感想から学ばせていただきました。

(文責：北本)